

日刊鉄鋼新聞 2026/03/11(水)

2026年(令和8年)3月11日(水曜日)

15 東三河

街の骨組み 鉄骨学ぶ

豊橋工科高生 豊川・外山鋼業を見学

県立豊橋工科高校(豊橋市)建築デザイン科の2年生39人が6日、豊川市御津町の鋼構造物工事会社「外

山鋼業」を見学し、「街の骨組み」となる鉄骨製造の現場に触れた。学校では木造の学習が主



社員から設計について説明を受ける生徒たち。豊川市御津町の外山鋼業で

なため、鉄骨造にも関心を持ってもらおうと同社が企画し7回目。生徒たちは3班に分かれて、最大20トンの梁や柱を製造する工場、製作管理などの部門を巡り、社員から説明を受けた。設計部門では、工務課の佐藤貴登さん(24)らが手順を説明。顧客から意匠図と構造図を受け取った後、「鉄骨を製作・加工するためには専用の製作図が必要」と話し、専用、汎用コンピュータ利用設計システム(CAD)を使い分けて、緻密に仕上げていく様子を紹介した。同社は主に竹中工務店の鉄骨工事を受注し、名古屋市内の中日ビルやパロマ瑞穂スタジアムなどを手がけている。外山典弘社長(58)は「関わった仕事は何十

年、何百年と街に形として残る。私たちが、この街の鉄骨をつくったと誇りを持つ」と魅力を語った。佐藤元さん(17)は「鉄骨の建物について初めて知ることができ、将来の選択肢が広がった」と話していた。(世古紘子)

(7) 地方

金天 鋼業 豊川 厚野

令和8年(2026年)3月11日(水曜日) (第3種郵便物認可)

日本列島
情報ネット

中部版

〒454-0074
名古屋千種区仲田2-15-12
ワークビル3階
名古屋支社
電話・052(735)6556 FAX・052(735)6557

Hグレードファブの外山鋼業 高校生向け工場見学会に39人

将来の進路選択の一助に

中部地区Hグレード出帯し、自ら鉄骨業界を学ぶ。ファブの外山鋼業(本社)の魅力を伝えた。同社を見学したのは、豊川市御津町の鋼構造物工事会社「外山鋼業」の2年生39人が6日、豊川市御津町の鋼構造物工事会社「外山鋼業」を見学し、「街の骨組み」となる鉄骨製造の現場に触れた。学校では木造の学習が主



鉄骨製作の様子を目的の3Dモデルにする。高校生は、最新のCAD技術についても学んだ。

なため、鉄骨造にも関心を持ってもらおうと同社が企画し7回目。生徒たちは3班に分かれて、最大20トンの梁や柱を製造する工場、製作管理などの部門を巡り、社員から説明を受けた。設計部門では、工務課の佐藤貴登さん(24)らが手順を説明。顧客から意匠図と構造図を受け取った後、「鉄骨を製作・加工するためには専用の製作図が必要」と話し、専用、汎用コンピュータ利用設計システム(CAD)を使い分けて、緻密に仕上げていく様子を紹介した。同社は主に竹中工務店の鉄骨工事を受注し、名古屋市内の中日ビルやパロマ瑞穂スタジアムなどを手がけている。外山典弘社長(58)は「関わった仕事は何十

年、何百年と街に形として残る。私たちが、この街の鉄骨をつくったと誇りを持つ」と魅力を語った。佐藤元さん(17)は「鉄骨の建物について初めて知ることができ、将来の選択肢が広がった」と話していた。(世古紘子)

総合

ものづくりの最前線体感

豊橋工科高校・建築デザイン科生徒対象 外山鋼業が工場見学会

豊川



生産現場を見学する生徒ら(外山鋼業で)

鋼構造物工事業の外山鋼業(豊川市御津町)は6日、県立豊橋工科高校建築デザイン科の生徒を対象に工場見学会を行った。同科2年生39人が参加し、普段目にするのではない鉄骨工事や設計工程などを見学した。

生徒たちは3班に分かれ、工場生産設計製作管理の各部門を巡り、鉄骨工事全般について学んだ。生産現場では、巨大な鋼を切断、溶接、形にする「ものづく

り」の最前線を見学した。ロボットによる溶接や超音波による検査説明などにも

生徒らは熱心に耳を傾けた。設計部門では、巨大な鉄骨を1ミリの狂いもなく組み立てるための「図面」の超精密な世界をパソコン上で紹介。設計が形になるまでの過程を学んだ。

見学を終えた北川想絆さんは「これまで木造を中心に勉強

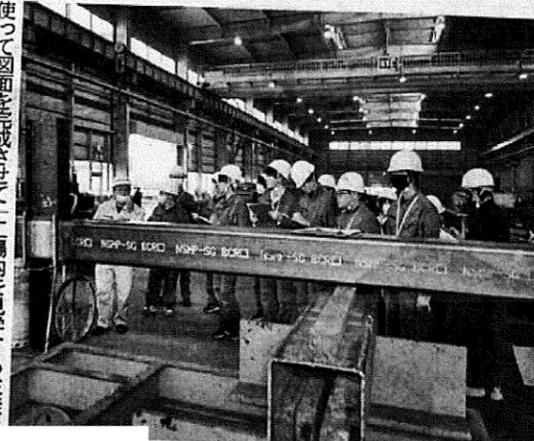
していたので鋼構造を知る良い機会となった。なかでも溶接の現場では、写真や動画とは違う迫力を感じ、より深く知ることができた」と感想を述べた。

外山典弘社長(58)は「街の骨組み」をつくるプロ集団として誇りと責任を持って取り組んでいる。この機会に本物の鉄骨に触れてその可能性と「ものづくりの熱量」を感じ取ってほしい」と話した。

現場で学ぶ鉄骨の仕事

豊橋工科高2年生39人

豊川の外山鋼業を見学



瑞穂公園陸上競技場などの工事に携わった。朱で建設中の高層ビルの鉄骨もつくれた。外山典弘社長は「米国ではホワイトカラーの仕事がAIに奪われています。日本でもそのような状況になる可能性があります。建設はAIに仕事を奪われることはありません。明るい未来があります」と話した。

【竹下貴信】

豊川市御津町の鋼構造物工事業「外山鋼業」を6日、県立豊橋工科高校建築デザイン科の2年生39人が訪問し、鉄骨の仕事を見た。

生徒は設計や現場での加工などについて見学した。設計では、CADを使って図面を完成させていく様子や、平面図から自動で3D画像が生成されることを知った。工場では大きな鋼材を切断し、ボルトを通すための穴を開け、溶接している様子を見学した。佐藤元さんは「学校では木

に良好な関係を築いている人をねがう、他の模範としてたえる取り組み。今年は、岡田正継さん、中原教子さん、梁

で開かれた。おおむね7年以上、高齢や障害による要介護者を献身的に介護し、互いに

使った図面を完成させていく様子や、平面図から自動で3D画像が生成されることを知った。工場では大きな鋼材を切断し、ボルトを通すための穴を開け、溶接している様子を見学した。佐藤元さんは「学校では木

工場内を見学する生徒たち(外山鋼業で)